

令和4年度 日南市立日南東郷小中学校 自己評価書

4 期待以上 3 ほほ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

1 学校の教育目標「豊かなくて、自ら学び考え、たくましく生きていくことができる子どもの育成」	運営協議会委員 自己評価
2 めざす子ども像「優しい子ども」「賢い子ども」「たくましい子ども」	
3 めざす学校像「明るく活気に満ち、夢と希望のある学校」「尊敬と信頼に支えられる学校」「地域に開かれ頼まれ、信頼される学校」	
4 めざす教師像「教育愛に燃え、実践する教師」「教育目標の具現化に取り組む教師」「子どもの可能性を引き出し伸ばす教師」	

<学校経営ビジョン> 夢や目標実現に向け、地域と一体となり小中一貫して東郷の子どもを育む (日南教育の推進)

目標	具体的目標	方策・手立て	自己評価	手立てとして行ったことや感想また今後、取り組みたいこと等	評価
6-1 児童生徒の学びの充実	○道徳教育の充実	○道徳の時間の確保と充実を図るとともに、児童生徒の実態に即した道徳教育を展開することで他者を深く理解する態度を養う。 ○「対話的で深い学び」を目指した授業を構築し、道徳的実践力の育成を図る。	3.3	○自他の生命尊重、規律ある生活、自分の将来の考え、法やまじりの意義、主体的な社会形成への参画等、日南市の「4つの学び力」に関する項目を重点事項として、その充実に努めた。 ○他者を深く理解する態度を養うように、道徳科の時間の充実を図り、「対話的で深い学び」を実現する授業を展開してきた。そうしてコツコツと積み上げてきた成果として、困っている人を助けようとしたり、声をかけたりの場が多くなってきているように感じる。 ○子どもの考えや心の持ちようが多様化し、思いやりの心や福祉、ボランティア等の心が育っている反面、人と合わせられない場面も多い。	3.7
	○挨拶、気持ちよい返事、感謝の言葉の励行	○日常活動を工夫し機会を捉えた適切な指導を行うことにより、児童生徒に、挨拶、気持ちよい返事、感謝の言葉を伝える習慣と、整理整頓に心がけしっかりと清掃を行う力が身に付くようにする。	3.2	○今年度は「きちんと立ち止まって挨拶する」の指導を行うとともに、児童生徒が主催した挨拶運動等によって、気持ちの良い挨拶や返事をする習慣が身に付いてきている。 ○きちんと立ち止まって挨拶する生徒が増えている。1回立ち止まるのはとても難しいことだが、時間の余裕、心の余裕を持った生徒が増えてきたことはすごいと思う。	
	○児童会生徒会活動を通しての共生力の育成	○みなの集いや学校行事等で児童会生徒会の活動が生かせるようにするなど、子どもが中心となる活動を工夫することで児童生徒の共生力を育成する。	3.3	○集団での活動が制限され、本校ならではの活動「みなの集い」が体育館で実施できなかったが、児童会・生徒会が工夫を凝らし、動画によって活動の指導を継続することができた。 ○昨年度よりも、子どもたちがクラブや委員会等で進んで取り組む姿が多く見られ、また、つわぶき植栽など積極的に参加したり、朝のあいさつ運動や「服のチカラ」「石けんつくり」「アクリルたわしつくり」等に自主的に取り組むことができた。 ○係や専門委員会の活動が「どういう学校にしたい」から、「こんな活動をする」というように目標や活動が明確になると、生徒も自分の役割や責任をもち、自ら動けるようになるのではないかと思う。	
	○スクールワイドPBSの推進	○児童生徒の望ましい行動に注目して、出来ていることを認め(賞賛)、自ら考え望ましい行動を増やしている児童生徒を育成する。	3.0	○SWPBSに対して、課題意識をもって向上を目指すことができた。 ○SWPBSへの取り組みによって、少しずつでも子どもたちの心良い方向へ育てていけたらと思う。 ○生徒会活動や学校の委員会活動など、担当や学習の仕掛けや準備ができていく場合の子どもたちの活動は、良いものが増えてきたように感じる。今後は子ども達も主体となって活動できるステージを目指し、そのための準備や仕掛けを教員が行う段階ではないかと思う。	
6-2 児童生徒の学びの向上	○分かる授業の充実	○「授業改善のチェックポイント」を土台とした授業改善を継続し、分かる、できるまで教える授業を実践する。 ○読解力を育成することを意識した授業づくりを行う。 ○校内研修を充実させながら学習指導法の工夫・改善を図る上で、ICTの積極的活用を行う。	3.3	○校内研修を充実させながら、授業改善の4+4のチェックポイントを基に、本校の授業改善のポイント(5つ)を作成し、全職員で共通理解しながら相互参観授業を実施することができた。その結果、これまで以上に読解の意識が高まり、知覚的な授業改善が図られた。 ○ICTを授業の中で活用することにより、教員、児童生徒のほとんどが使用できる状況となった。 ○タブレットを活用した授業の工夫が、各先生方に見られ、子ども達の興味・関心を高めるような授業が行われている。先生方がイロノフート等をよく使って授業をされているので、子どもたちも楽しんで授業に参加しているように思う。 ●校内研修やICTの活用、1単位時間での取り組み全てにおいて、教員間の温度差が大きくなるように感じる。ほとんどの教科が一人による指導で、しかも中学校3年間全てを担当することが多いことを考えると、そのことへの責任やプライドや危機感をもっと少し持った方がいいのではと考える。 ●読解力を高める学習指導や、「まなびの見届け」「まなびの確認」を実施する学習計画が今以上に必要である。	3.2
	○学力の向上	○朝の活動やモジュール学習を活用し、読み、書き、計算等の基礎的学力の定着を図る。 ○評価テストの在り方を工夫する。	3.1	○小学校では、朝や午後の15分を学習の習熟を図る時間として位置づけ、基礎的・基本的学力の定着を図った。 ○全国学力調査等の過去の問題に取り組ませることで、読解力や活用問題に対応できる能力の育成を図った。 ○児童生徒に力がついたか学力が向上したかを客観的に見るのは、みや学テストや全国学テストになり、そのテストの結果に反映されているかどうかであると思う。	
	○読書活動の推進	○日南市「旅する読書」活動を推進する。 ○親子読書や読み聞かせなどの取組を工夫することにより読書活動を充実させる。(小学校) ○読書活動を通して短編の良書に触れる機会を設定する。(中学校)	3.1 2.9	○日南市の「旅する読書」活動の取組では、2名の児童が読書100冊を達成し表彰を受けた。 ○校内図書室の本を100冊以上借りた児童が5名いた。今年度は、中学生による小学生への読み聞かせを実施することができた。 ○家庭での読書を推奨したり、PTAやGAYAの会による読み聞かせ・読み声や親子読書、たいよう号活用などを推進したりすることができた。 ○たいよう号を利用する児童も多い。(ただし、読んでいない児童の二極化も見られる)	
	○キャリア教育を通して自己実現を目指し、勤労を重んじる態度の育成	○発達段階に応じた体験活動の充実を図る。(小) ○小中一貫した進路指導の充実を図る。 ○職場体験学習や社会人講話、シブシャドウイング(JSW)等の体験、さらに中高連携を図り、自己実現できる生徒を育成する。	2.9	○学校行事や総合的な学習の時間等にキャリア教育を推進し、キャリアパスポートを活用することができた。3、5、7年生は、地域の産業を学び、東郷地区の職業体験も行うとともに勤労を重んじる心豊かさを図った。中学校では、3、9年生は職場体験学習を行い、将来の進路選択に向けた意識の向上を図った。 ○キャリア教育の重要性を、今後も学校と保護者でもち共有する必要がある。 ○キャリア教育に関わる取り組みはなされている。その中で、夢や目標をもち、実現するために努力する児童生徒を育てていく必要がある。	
	○学校と家庭の連携による学習指導の充実	○保護者への啓発を強化したり家庭学習の目的や実施方法について指導したりして学習指導の充実を図る。 ○児童生徒の実態に配慮し、適切な課題を提示することにより学習指導の充実を図る。	3.1	○コロナ禍の中、感染症対策を保護者へ啓発し、学校と家庭との連携を講じながら、参観日や運動会、学習発表会を実施することができた。 ○家庭学習の取組の家庭への啓発によって、課題等の見届けを行ってくださる家庭が多くなった。 ○ホームページで学校の様子等を定期的に紹介する情報提供に努め、4月からの視聴者が12月現在19万人を超えている。 ○ICTを活用した授業が積極的に行われるようになったが、家庭学習としては学力の向上は図れないと思う。学習面での家庭との連携が課題。	
6-3 児童生徒の学びの向上	○健康安全・体育的行事の充実	○運動会や持久走大会などの体育的行事の充実を図る。 ○避難訓練や交通安全教室などの取組を工夫する。 ○学校保健委員会を開催し保護者の体育学習や保健学習への理解を深める。 ○体力向上プランを活用した体育学習及び保健学習の指導を実施するとともに、運動の日常化を推進し運動能力の向上を図る。	3.1	○本年度も運動会は、コロナ感染拡大防止のため参観制限及び午前中開催と規模を縮小して実施した。その中でも、運動会の目標を達成し、児童生徒が満足できるような取組ができた。また、生徒からの強い要望で、動作ダンスを取り組んだが、自主的・自発的取り組みとして生徒の成長を感じることができた。 ○持久走大会は中止となったが、小学校では学年単位で、体育の授業で後日実施した。次年度に向けて、予備日を設けて手立てを打ちたい。 ○避難訓練や交通安全については、コロナ禍に対応しながら工夫した取組を行い、児童生徒の防災・安全意識の高揚を図ることができた。 ○体力向上プランについては、これまでのコロナ禍の影響が大きく、目標を達成することができなかった。 ○運動不足やエネルギー過多による肥満傾向の児童生徒も以前より増えてきたように感じる。 ○早寝早起き朝ご飯については、夜更しし、朝ご飯抜きは少量の生徒がまだ多いように思う。今後も家庭と連携し、改善を促していけたらと思う。	3.6
	○食育や健康教育の充実	○栄養職員や外部講師と連携した指導など工夫した取組を行い、性教育や命を大切にすることの教育、食育や健康教育の充実を図る。	3.3	○性教育、いのちを大切にすることの教育については、いのちの教育週間に年3回設定し、レインボーランに基づいた取組を行うことで、自他のいのちを大切に守り育む態度を育成することに努めた。その結果、性やいのちに対する意識が高まってきている。 ○栄養教諭を招いて、給食時間に望ましい食生活等について学ぶ機会を設定した。給食便りや保健便りで啓発を行った。 ○8年生男子に肥満傾向の生徒が数名おり、食育の面で家庭との連携が特に必要と感じる。	
	○部活動への積極的参加	○計画的で充実した活動の工夫を行う。(中学校)	3.9	○平日いざつかも、火曜日を休業日(リフレッシュデーの設定)とし、適度な部活動休業日を設け、若干の制限はあったものの、計画的で効果的な練習ができるように各部で工夫することができた。 ○柔道競技では九州大会・全国大会に出場。男子ソフトテニス部が南部地区中体連で夏秋団体優勝、女子ソフトテニス部も秋の中体連で県大会出場、陸上競技部は部員3名だが、全員が県大会出場するなど、競技力も向上させている。	
6-4 児童生徒の学びの向上	○ふるさとを知り、ふるさとを大切に育む心の育成	以下のような活動を充実させる。 小学校：稲作体験 さとねり体験 (もちつき) ひな山まつり 中学校：(キカンク取組) 小中合同「日南くらしお支援学校との交流 四季の森こども園との交流 大運動会 学習発表会 (くすのき祭り) つわぶき植栽 (風田浜清掃) () は中止	3.0 3.0	○コロナ禍によって以前より地域の方との交流が滞っているとは思われるが、限られた場面の中でも積極的に交流することができていると思う。 ○地域コーディネーターの協力によって、学習支援ボランティアの方々に学校行事や各種授業において多大なる支援が行われていることに、とても感謝している。 ○「つわぶき植栽」は、今年度も多くの中学生ボランティアの参加があり、「つわぶきマラソン大会」を旗揚げさせる活動ができてよかった。 ○総合的な学習の時間で、特に7・8年生はふるさとについて考え、良さを見つけた計画を立てられ学習を進めている。計画的にふるさとに関する学習を行うことについて、ふるさとを大切に育む心を醸成していきたい。 ○コロナ禍で厳しい状況の中、ふるさと学習において地域のご支援をいただきながら、郷土愛を育むことができた。 ○「ひな山まつり」で交流できることを楽しみにしている。	3.1
	○地域のみなさんと交流し、愛される子どもの育成				
<p>学校運営協議会委員のコメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ禍で制限がなされる中、秋季運動会や学習発表会など、見学させていただき大変感謝しました。 ○ 行事参観を通して、先生方の丁寧な指導を垣間見ることができました。 ○ 子どもたちは、日々成長していると実感しています。 ○ コロナ禍での取組など大変ですが、これからもよろしく願います。 ○ コロナの中、先生方も日々頑張っていると思います。 ○ 早く元の学校生活に戻れることを祈るのみです。 ○ コロナ禍により、学校の教育活動に制限等ある中、児童生徒の教育をさせていただき、子どもたちも明るく学校生活を送っていると思います。 					